

R5 第2回社会教育委員会 「視察研修のまとめ」の進め方

<視察研修のまとめについて>

- 1 任期2年目なので、「地域資源の活用～人づくり・つながりづくり・地域づくり」について、ある程度の総括が必要と考えられる。
- 2 総括の方向性 (2回目研修会での話し合う中心的内容)
 - (1) 地域資源を活用するために大切なことは何か。
 - (2) 地域資源を活用するために行政・コミセン等はどのような関わりや支援が必要か。
- 3 全体の流れ 80分
 - (1) 事実の確認

視察研修を通して「長岡市では豊かな地域資源を生かす取組がなされていた」

 - ① 昨年度の研修のまとめ資料
 - ② 今年度のトチオーレ・山本地区での研修→各委員の研修レポートを集約
※第2回会議前に各委員の研修レポートをまとめて当日資料とする (小方)
 - (2) グループワーク

<その1>

テーマ 地域資源を活用するために大切なことは何か。

 - ・付箋ピンク 「これが大切」…例 地域資源の再認識、市民活動活性化
 - ・付箋ブルー 「課題がある」…例 拠点施設まで遠い

<その2>

テーマ 行政・コミセン等としてはどのような関わりや支援が必要か。

 - ・付箋ピンク 「これが必要」…例 実績に応じた複数年の予算付け
 - ・付箋ブルー 「課題がある」…例 若い人材活用、大学連携協定
 - ① グループ 3班編制 (7人班2つ 6人班1つ)
 - ② 役割
 - ・ファシリテーター (進行・整理係) …班長
 - ・ライター (模造紙に記入する係) …当日、班内で選出
 - ③ 用品
 - ・模造紙2枚
 - ・多色マジック (ポスカ等)
 - ・付箋2種類 ピンク・ブルー それぞれ一人3枚×2題名
 - (3) 付箋を分類整理し、各班の話し合いをまとめる。※模造紙にまとめる

テーマその1 付箋書く5分→貼りながら話し合う・まとめる25分 30分

テーマその2 付箋書く5分→貼りながら話し合う・まとめる25分 30分
 - (4) 全体発表し共有する。(題名その1・その2を一緒に発表)

各班4分で、話し合いの内容を発表 (掲示板に模造紙を貼る)

4分×3班=12分

令和4年度 長岡市社会教育委員会 視察内容のまとめ

	和島地域	三島地域	
地域資源	良寛と史跡 良寛に関わることを地域の誇りとして住民が胸を張り、活動できる地域づくり	竹あかり街道 杉林を浸食した竹を伐採することで、里山の荒廃を防止する里山保全の啓発活動	登山マラソン 急坂のコースを上がると長岡市内と日本海が眺望できる自然を利用した大会
地域資源活用の取組の中心組織	和島公民館（当時館長：羽鳥さん） 街づくり協議会	三島ライトアップ実行委員会（事務局個人宅） ながおか生活情報交流ねっと	登山マラソン実行委員会 （事務局 三島支所市民生活課）
人づくり 自主・自発的な学び 自己実現・成長	公民館での地域歴史講座開設 住民が地域の歴史・誇りを学ぶ場づくり 小・中学生の学びと活動の場をつくる ガイドの育成	小学生の行灯づくり 中学生の竹灯籠づくり ボランティアの参加（約500人）	全国からの参加者 （昭和60年から38回実施） 小・中学生の参加 地区内ボランティア
つながりづくり 住民の相互学習 つながり意識 住民の絆	墓前供養のための清掃活動 良寛会への参加 ガイドの会立ち上げ	長岡造形大学の協力 学生が中学生に教え、中学生が小学生に教える ボランティアの参加（約500人） 幅広いネットワークをもつ 多世代の参加者がいる	有森選手のチャリティマラソン 全校中学生が参加する体制づくり(学校)
地域づくり 地域への愛着 将来を考え取り組む 住民の参画 地域課題の解決	街づくり協議会 はちすば通りの整備（蓮の植栽など） 墓前法要 良寛手まり座 中学生「良寛を歩く」遠足 史跡「住雲園」清掃に中学生参加	実行委員会メンバー17名の実行力 伐採した竹を竹灯籠に 木材粉碎機で竹を粉碎し山に戻す 協賛が多い	中学生のコース整備活動参加 地域おこしの大義ではなかったが有名になった 企業からの協賛
今後の課題	公民館→コミセンへの移行 関わる人・後継者の育成 活動資金の確保 発信・広報	50～60代の実行委員の高齢化 実行委員会と他の団体・行政との連携 次の世代にどうつなげるか	運営の苦勞・負担が大きい 行政頼みの面がある コミセンなど他組織との連携

感想・学び < 地域住民のリビング・魅力的な施設 >

- 1 ◎幅広い年齢層が活用できる・団らん可能な施設・飲食も自由
- 2 ◎開かれたスペース、フリーな雰囲気、使い勝手がよい
- 3 図書室…多くの世代が目的に応じて利用できる
- 4 若い人たちに大いに利用してもらいたい
- 5 子どもたちが施設内で気分転換できる場所がある（野外スペースもある）
- 6 eスポーツや音楽スタジオ（多世代が利用できる）
- 7 新しい価値（魅力）を創り出す意欲を醸成できる施設

◎は意見多数

感想・学び < センターの役割・栃尾の地域をつなぐ >

- 1 ◎栃尾の交流文化の中心地 つながりづくり・地域づくりの場となっている。
- 2 ◎「各地域の文化は共有できないが連携はできる」などセンター長の高い識見と人柄により、様々な仕掛けが運営に生かされている。
- 3 つながりづくり・各地域の文化や取組を発表する「かりやだ交流会」が地域の大切なものを再発見・再認識することにつながっている。
- 4 栃尾の各地域の文化をつなぐパイプ役・他地域の文化やよさを認知させている。
- 5 栃尾各地域の歴史・文化の魅力再認識する取組
- 6 地域組織や団体を尊重し、連携した様々な事業実施（商店街と連携・観光PRなど）
栃尾の新しい価値（魅力）を創り出そうとしている。
- 7 栃尾の「関係プレーが苦手」「相手のことを理解することが苦手」を克服する組織と事業を展開している。
- 8 コミセンが前に出ないで、各団体とのパイプ役・支援役に徹するようにしている。
- 9 ◎小中学校と連携し、郷土愛を育むなど学びの場として継続活用されている。課題として重視する必要性あり。
- 10 子どもの「スイカ割りをやりたい」などの願いを叶えられる現場が素晴らしい。
- 11 イベントが多くうらやましい。各部会が上手に運営している。
- 12 ボランティアなど社会福祉協議会との連携がうまくいっている。
- 13 地域おこし協力隊との取組

課題

- 1 ◎トチオーレから離れた住民の活用促進の在り方。施設から遠方の方や交通の足を持たない方への配慮。送迎配車や関係スタッフの配置などが必要ではないか。
- 2 ◎地区コミュニティが少子高齢化のため、連携と情報交換が必要。地区の活性化のためには、とちおコミセン（トチオーレ）との連携の在り方が課題
- 3 ◎旧公民館分館は地区コミュニティとして残している。トチオーレとのつながり・連携
- 4 幼児向けのコンサートや人形劇が開催されるとよい。授乳室に冷暖房がないのは疑問。
- 5 若い年層に図書館等を利用してもらい、読書のよさを子どもに伝え、広げるとよい。
- 6 自然の豊かさ・歴史ある栃尾を若い子育て世代に知ってほしい。
- 7 栃尾「道の駅」など既存施設とのすみ分け
- 8 ◎小中学生の利活用を通して地域の素晴らしさを伝え、郷土愛を育み人材育成を図ること
- 9 コミセンが各団体との間に入り、連携や協力体制をつくること
- 10 栃尾商店街や旧市街地との連携など、コミセンの役割・機能の発揮が必要ではないか

◎は意見多数

感想・学び

- 1 ◎外部の専門家や市民協働センター等を交えた検討会実施はとてもよい
つながりを広げることで支援者や協力者を得て、実行する力が高まっている。
- 2 ◎「身の丈に合わせた方向付けと実施・真摯な姿勢・できる範囲で行う」は重要
空き地にサツマイモ・ハイキング・みやじさまなど
- 3 ◎SNSを活用はよい。プロジェクトメンバー募集や広報。参加者の広がりも生む。
つながりづくりの一つの方法としてよい。
- 4 イベント参加者と運営ボランティアが共に参加してよかったと実感できている。
- 5 ◎地域の宝＝地域資源を再確認・再発見して、共有して事業を実施することで、住民に
自信とやる気を高めることができている。
- 6 住民に「地域のこと（歴史・文化）を知ってもらうことが大事」は重要
- 7 「やまもと探索コースナビ」は外部のみならず、住民に歴史文化を啓発している。
- 8 プロジェクトの企画（応募）そして、実践の過程・行動力が素晴らしい。
- 9 地域の企業や寺社など地域ぐるみの取組ができている。
- 10 プロジェクトに住宅団地造成計画があり、宅地が完売したことは事業として素晴らしい。

課題

- 1 ◎単年度の補助金を活用した事業では、単発的イベントとなる。継続・持続的に行える
プロジェクトや支援が必要である。
- 2 ◎小中学生の郷土愛を育むことは担い手として大切。プロジェクトと学校との連携が
必要である。そこから保護者（若い世代）にも地域への関心を高めていくとよい。
- 3 ◎メンバーの固定化は課題 メンバー選定どのように行うか、見直しをどうするかは課題
- 4 次世代に広げ、継続していく手立て（後継者の育成）や発信方法を工夫すること
- 5 「やまもと探索コースナビ」などは広く広報するとよい。
（市民協働センターや地域活性化センターと連携）
- 6 このような長岡市内各地の取組や活動を共有できれば、市内の広範囲で人づくり、つな
がりづくりができるのではないか。
- 7 活動継続には市の資金援助や市民協働センター等の支援体制強化を図る必要がある。
- 8 若いメンバーに「参加して楽しい」という感覚をもたせ、広げることが難しい。